

米国公立研究大学 11 校、低所得層学生の大学進学・
卒業生数増加を目指す「大学イノベーション同盟」を結成（9 月 16 日）

米国大学の中でも特に経済的・人種的多様性に富んだ学生を受け入れる公立研究大学 11 校は 9 月 16 日、低所得層の学生の大学進学・卒業生数増加を目標とした「大学イノベーション同盟（University Innovation Alliance）」の結成を正式に発表した。

本同盟の加盟大学は、ジョージア州立大学（Georgia State University）やアリゾナ州立大学（Arizona State University）を含む 11 校である。これらの大学 11 校には、大規模な研究大学の在学生の 20%が在籍している他、低所得層学生のための奨学金である「ペル・グラント（Pell Grant）」の受給者の割合が 33%と、公立研究大学全体における同奨学金受給者の割合である 25%を大きく上回っている。

また、これらの大学における卒業率は 51~82%である。本同盟加盟校に対しては、ビル・アンド・メリнда・ゲイツ財団（Bill & Melinda Gates Foundation）を始め、クレスギ財団（Kresge Foundation）、ルミナ財団（Lumina Foundation）、フォード財団（Ford Foundation）、マークル財団（Markle Foundation）、及び非営利団体の USA 資金（USA Funds）などが資金援助をしており、本同盟も 570 万ドルのマッチングファンドの調達を誓約している。

The Chronicle of Higher Education, New 11-University Alliance Plans Efforts to Help Graduate More Needy Students

<http://chronicle.com/article/article-content/148819/>